



〈社会情勢〉

- ・少子高齢化、人手不足、多様性
- ・インクルーシブ教育、特別支援教育
- ・特別な支援を必要とする児童生徒の増加
- ・適切な就学の場の決定、通級指導
- ・障害者差別解消法
- ・高等部の在り方
- ・センター的役割

等々

〈生徒の実態〉

- ・多様な実態、困り感、医療的ケア
- ・居住地域、成功経験の少なさ、緘黙
- ・寄宿舎生、通学生

〈保護者の願い〉

- ・安心・安全、健康、落ち着き
- ・自立、進路
- ・生活力の向上

〈学校所在地〉

- ・地域の特徴（少子高齢、過疎）
- ・自然環境
- ・社会資源（人的、物的、交通）
- ・幼児児童生徒の状況
- ・幼・小・中・高とのつながり
- ・福祉施設等関係機関とのつながり

【子ども主体、地域とのつながり、実生活との関連】

主体的 ⇒ 生活とのつながり、環境（教材・教員、ICT、人）、見守る姿勢、
対話的 ⇒ 様々な人との関わり（地域、ICT、交流及び共同学習等）
深い学び ⇒ 実生活とつながる深い体験、具体的体験、生活への般化
個別最適な学び、協働的な学び ⇒ ICT（自学自習）、分業と協働

【教職員としての専門性】

- ・人権意識 ・障がい特性の理解 ・知識 ・技能 ・経験 ・柔軟性
- ・穏やかさ ・思いやり ・共感的理解と協働性 ・良さ、意欲、自信を引き出す ・説明力（なぜ、何のために。実生活との結びつき）
- ・自らの主体的に学ぶ意欲 【教員：北海道における教員育成指標】

校訓：「伸びやかに たくましく」

学校教育目標：Believe in yourself ～協働・チャレンジ～「輝きながら、夢をもって歩む人を育てる」
（“一人一人のウェルビーイングの実現”）

本校の基本姿勢

～生徒一人一人の障がいの状態に応じて、生徒が地域との対話を通し主体的かつ協働的に学ぶ授業の実践～

【何ができるようになるのか】

【生徒が目指す姿：5つの力（意欲）】

- 1 日常生活に必要な活動を自分でする（日常生活に関わる力）
- 2 健康で過ごす（健康・体力に関わる力）
- 3 自分で考え、相談・決定・解決する（相談・理解・表現に関わる力）
- 4 自由に時間を楽しむ（余暇活動に関わる力）
- 5 人々とよりよい関係を築きながら過ごす（人と関わる力）

主体的、対話的で深い学び 実生活との結びつき〔般化〕

【何が身についたのか】

- 個別的教育支援計画
- 個別の指導計画（通知表）：教務・舎務
- 個別の移行支援計画

【何を学ぶか】

- 自立活動（生きやすさ、学びやすさ）
- 教科別の指導
- 各教科等合わせた指導
- 特別活動
- 総合的な探究の時間

【どのように学ぶか】

- 「自立と社会参加」を目指し実生活に活かすための知識、技能を地域の人とともに体験的に学ぶ
- （幼・）小・中・高の人と共に学ぶ
- ICT等を活用し自ら学ぶ（個別最適な学び）と仲間と共に学ぶ（協働的な学び）
- 寄宿舎（学校）での共同生活（生活スキル、余暇活動）

【学校が目指す姿：安心・安全】

- 1 地域とともに生徒の社会性（主体性、協働性、道徳性）を育む学校
- 2 生徒の人権を尊重し、きめ細かく丁寧な教育を行い、一人一人の能力を確かに伸ばす学校
- 3 生徒が明るく元気に学ぶ活力ある学校
- 4 地域の特別支援教育の拠点となる学校

【教職員が目指す姿：専門性、人権尊重、安心・安全】

- 1 主体的、対話的に学び続ける
- 2 生徒の人権を尊重し、生活年齢や発達段階に応じた呼称、言葉遣い等に留意し、卒業後の生活につながる人間関係を築く
- 3 生徒の心情に寄り添い、卒業後の自立（自律）と社会参加を踏まえた丁寧かつ具体的な指導をする
- 4 対話を通した良好なコミュニケーションに基づく連携・協働を図る

本校が大切にしている理念

- “挑戦と改善”（trial and error）
- 生徒の人権保障（接遇、呼称、体罰の未然防止）
- 教務、舎務、事務との連携（限られたリソースの有効活用、工夫）
- 地域と協働した教育活動（人的、物的資源の積極的な活用）
- 幼・小・中・高とのつながり、交流及び協働学習の推進
- 情報共有、相互理解、合意形成、協働性、組織的対応
- 保護者、地域との対話、共感的理解、合意形成
- （生徒が）「なぜ、何のために、何につながるのか」が分かり「できた、分かった、またやりたい、もっと知りたい…」と思う授業の充実
- 生徒・保護者のニーズの把握と対話
- 安心安全な学校（いじめ、不登校の未然防止、災害や感染症などに対する未然防止）
- 通学生、医療的ケア生徒、寄宿舎生への適切な対応
- 寄宿舎生活の充実（生活指導、余暇活動）

